

# 令和5年度『プレイバックシアターを 活用した参加型授業』を紹介します。



動く彫刻：語り手のある瞬間の感情を表現

プレイバックシアター（PB）とは語られたストーリーを役者がその場で演じる即興劇です。経験の振り返り、経験の共有、互いの経験から学びあう機会になります。『あおば PB』はスクール・オブ・プレイバックシアター日本校のコアトレーニング修了生で、仙台の大学生や社会人からなるPBの劇団です。JST-RISTEXが推進する「社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築」のプロジェクトの支援を受けて実現しました。2月17日（土）、虫明美喜先生（東北多文化アカデミー理事・宮城教育大学客員准教授）、虫明元先生（東北大学大学院教授）と5人のメンバー（保健師2年目、医学科6年生、日本文学科4年生、看護学類3年生、保健学科放射線専攻2年生）と共に、香川県立保健医療大学でPBを活用したワークショップとPB公演を行いました。香川県内で「家族」や「子育て」をテーマに活動する『PB劇団365』の協力も頂きました。初めてPBを体験する本学学生・大学院生や教員らは、最初は緊張感、徐々に安心感、そして「もっと語り合いたい」という場の雰囲気を感じました。参加者の感想は、教員「学生が学生のために演じることはすばらしい学びになる」、あおば「この場にいる全員が仲間になったような感じ」「東北と四国つながれた！一生の宝」、学生「即興でやっている！！信じられない」「本当に楽しい。（自分の）壁を乗り越えられた」「自分の思いを客観的にみることができた」「安心安全な場、自分もそういう場をつくりたい」、劇団365主婦「学生たちがとてもいきいき。学生が語ったストーリーに感動」「このような機会を継続したい」等。今後の課題は教育の成果を示すことです。

岡田麻里（在宅看護学）・小林秋恵（基礎看護学）・石原留美（助産学）



輪になってエクササイズ：雰囲気づくり



あおばPB：公演のテーマ「夢」



輪になって本日の振り返り



集合写真「また会いたい」という気持ちを込めて